

13 街道遺産発見の旅 ～歩く唐津街道の旅人と標識設置活動



玄界灘風景街道・歩く唐津街道の旅 佐賀県唐津市～福岡県北九州市

1 社会資本の概要

北部九州に位置する国道202号や204号沿いの玄界灘沿岸地域は、弥生時代末期から大陸との交流路が開かれており、その後も大和朝廷と筑紫との連絡道として整備が進み、奈良時代の国の骨格道路・七道整備の先駆けとなるものといわれています。この道筋は神功皇后(3C)の新羅遠征や、豊臣秀吉による朝鮮出兵による軍事用道路としても利用さ

れ、江戸時代の参勤交代制度などによって道路網の再編や宿場・沿道環境の整備などの道の歴史を刻んできました。沿線には街道時代の名残である14の宿場をはじめ、祭りなど数多くの街道遺産が残っており、海に面した街道沿いは地域ごとに異なる美しい景観も有しています。



厳冬下師走の旅人／唐津城・舞鶴橋



室見川に映る福岡タワーと旅人



石炭積出で賑わった洞海湾の夕日

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「街道遺産発見の旅」は、旧唐津街道(約140km)をメイン街道とし、これに接続する長崎街道などを舞台にしています。車社会となった現代では、古来からの遺産も地域住民さえ気づかない物となってきており、「歩く唐津街道の旅」は、こうした遺産にスポットライトを当てる事で、未来へ継承し新時代でも活用する方法が見いだせないかという思いから活動を行っています。ウォーキングを通して発見した遺産の存続・継承・活用を活動の目標として、更に広く関心を抱いてもらうための工夫「プラス5」

の活動も実施しています。
①資源マップ・参加グッズの制作
②マイスター制度と完歩賞の授与
③記念ウォークや交流ウォークの実施
④ゴミ拾い活動
⑤唐津街道標識設置(地元や来訪者への周知や活用をネライとして、全区間に亘る統一的な標識を設置)
また、国の運動である「日本風景街道」のパートナーシップとして取り組んでいます。



資源マップと参加グッズ



通行手形



唐津街道標識

3 活動の成果や波及効果等

歩く旅は150回を超え、参加者・支援者も質・量ともに充実し、訪問先との交流や広報活動・支援の仕組みも定着化してきています。回を重ねたことで、仲間づくりはもとより、現地ガイドを名乗り出る一般参加者など、参加スタイルも多様化してきていますし、資源マップや記念誌などの制作物は関係機関や地域へ配布等することで、参加者のみならず、街道遺産の掘り起こし、保存活動、広報活動等に成果を上げてきています。

配布資料や参加グッズ、周年記念活動は参加意欲向上に大きな効果があり、毎年発行の通行手形(参加毎にシール貼り)にはコレクターもいます。

さらに、標識設置活動は、統一的デザインにより地域差をなくし、沿道環境整備や地元への啓発活動に波及しており、14の宿場間に現在11ヶ所の設置を達成しており、沿道地域の新たなシンボルとなってきています。活動内容や波及効果はウォーキングに留まらず多岐に渡るようになり地域間の交流の場や、関心を寄せてもら分野も広がり、今後の活動での展開が楽しみです。



歩く旅ゴミ拾い隊



マイスター認定



現地でのガイド



150回記念

喜びの声

受賞者



玄界灘風景街道・歩く唐津街道の旅
代表 梶谷 秀秋

コメント

古来、「道」は私たちとともに歴史を刻んできました。また、沿道の景観もその形を変えながらも未来へ向けた資源を育てています。歩を刻みながら、街道遺産を感じ・ふれ合い、そして次世代へ繋げたい。この受賞を機に、さらなる仲間づくり、街道資源の発見・活用への思いを新たにしています。多くの方々の支援を励みに「歩く旅」は続きます。

活動の内容

- 月1回の参加者自由のウォーキング
- 街道遺産発見や史跡ガイド
- 【プラス5】の活動
 - ①資源マップ・参加グッズ ②マイスター認定・完歩賞
 - ③記念ウォーク・交流ウォーク ④清掃活動
 - ⑤唐津街道標識設置活動

活動の経歴

平成8年 旧唐津街道ジャーニーランウォーク発足
 平成21年 「歩く唐津街道の旅」として唐津街道往還再スタートし、毎月第4日曜日・年12回のウォーキングを実施
 令和4年4月で150回を迎える
 令和2年 唐津街道標識設置活動開始
 令和4年5月までに11基設置

所在地

佐賀県唐津市～福岡県福岡市～同県北九州市門司区

活動主体及び連絡先

玄界灘風景街道・歩く唐津街道の旅
世話人会代表：梶谷秀秋
masutani.h9@major.ocn.ne.jp

対象となる社会資本

国道202号、204号など旧街道沿線地域

